

ヤマトグループ関西ゲートウェイ

Yamato Group Kansai Gateway

No. 21-018-2018作成
新築
事務所/工場・物流施設

発注者	茨木松下特定目的会社	カテゴリー	
設計・監理	フジタ大阪支店一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術
	FUJITA Corporation	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
施工	株式会社フジタ大阪支店	E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

先行3施設と連携し、『止めない物流』を実現する関西エリアの複合物流拠点

■計画概要・コンセプト

『関西ゲートウェイ』は、大和ハウス工業の特定目的会社である、茨木松下特定目的会社が大阪府茨木市に建設し、ヤマトグループが、テナントとして入居する、羽田クロノゲート、厚木ゲートウェイ、中部ゲートウェイに続く、4番目の総合物流ターミナルである。

ヤマトグループの『バリュー・ネットワーキング』構想のキーワードである『止めない物流』を建物の基本コンセプトとし、それに加え次の取組みも行っている。

- ①建物安全性向上・BCP対策
- ②長寿命化・省エネ・フレキシビリティ
- ③人にやさしい車・物・人のスムーズな流れ
- ④周辺環境への配慮

■建築計画

建物は、ヤマト運輸（株）とグループ会社9社での共同使用を想定している。様々な機能を持った『倉庫』、『事務所』、『見学施設』で構成される。

◎倉庫エリア（79000㎡）

- 1階 宅急便仕分け
- 3階 クール宅急便仕分け
- 4～5階 グループ会社倉庫

◎事務所エリア（9600㎡）

- 1階 宅急便センター、防災センター
- 2階 事務所・見学施設
- 3階 事務所・食堂
- 4～5階 事務所・会議室
- 6階 駐車場

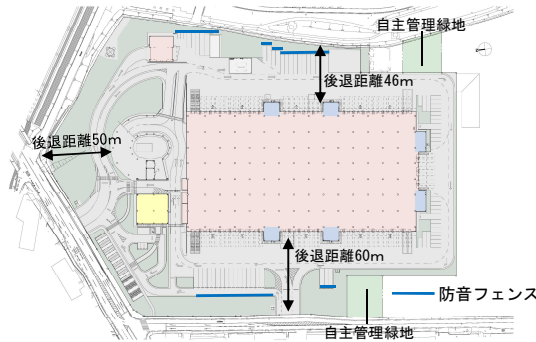
トラックバス110台、待機場46台分、大型車用の対面通行ランプを備え、効率的なオペレーションが出来るようになっている。

建物周囲に緑地帯と、周回道路を設け、敷地境界から壁面の分離を取ることで、圧迫感を軽減し、周辺地域への配慮を行っている。

先に竣工した3施設の運用後のフィードバックを積極的に取込み、施設計画に反映している。



『関西ゲートウェイ』全景



『関西ゲートウェイ』配置図



敷地境界緑化

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	BPI	B+ランク	
竣工年	BEI (主要入力法)	BEE=1.2	
敷地面積	LCCO2削減	2014年度版	
延床面積		自治体提出	
構造			
階数			

①建物安全性の向上・BCP対策

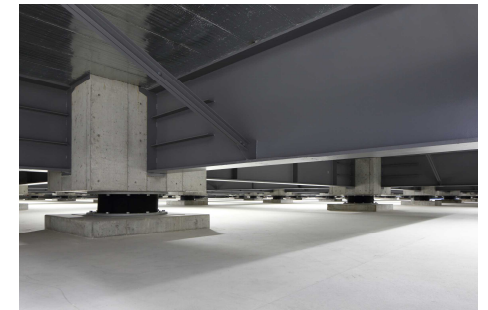
災害発生時にも物流機能を止めないため、様々な取り組みを行っている。

【建物安全性向上】

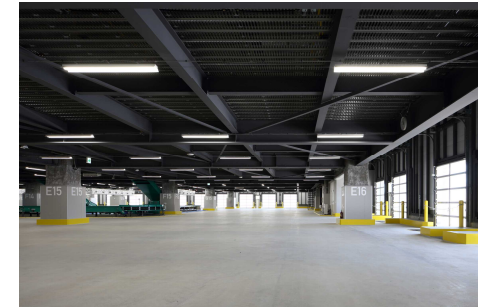
- ・免震構造の採用

【BCP対策】

- ・非常用発電機の設置
- ・サーバー用UPSの設置
- ・重要設備の2重化配線



免震装置



宅急便仕分けエリア

②長寿命化・省エネ・フレキシビリティ

【長寿命化】

- ・免震構造を採用し、躯体・設備機器の損傷を防止

【省エネ】

- ・外壁に金属断熱サンドイッチパネルを採用し、熱負荷、LCCO2を軽減（全館空調対応）
- ・全館LED照明+人感センサー
- ・BEMSの導入

【フレキシビリティ】

- ・将来の空調機増設も想定し、設備用バルコニーと屋上に増設スペースを計画

③人にやさしい車・物・人のスムーズな流れ

3施設のフィードバックを反映しつつ、関西ゲートウェイ独自の車動線・物流・作業動線・事務所動線を設計～施工段階で検証した。

【車動線】

- ・歩車分離+来客車両の動線分離
- ・構内一方通行・車路管制設備による安全性確保
- ・大型車両・待機位置
- ・対面通行ランプの実車走行試験

【物流・作業動線】

- ・9社の倉庫と事務所の効率的な配置

【事務所動線】

- ・動線分離+セキュリティ確保

④周辺地域への配慮

【建物配置・外構計画】

- ・敷地境界線を積極的に緑化し、敷地境界からの壁面の分離を大きくとり、圧迫感の低減と通行車両の光害を抑制。
- ・敷地面積の17.5%を緑化し、敷地外に自主管理緑地の設置を行い、周辺環境の向上に貢献
- ・防音フェンスによる住宅地への騒音を抑制



事務所側外観

設計担当者

建築：古庵秀明、加藤社、田中秀明、石川陽一郎/構造：石井勝、三輪若菜、島村賢太、安竹涼平、下川辺啓、紀大宮憲司、徐部/設備：松尾英/電気：濱中史紀、吉田達平

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2.2. 耐用性・信頼性（免震構造、躯体PC化、非常用電源）
- Q2.3. 対応性・更新性（テナント設備の増設対応）
- Q3.1. 生物環境の保全と創出（外構緑化）
- LR1.1. 建物の熱負荷抑制（金属断熱サンドイッチパネル）
- LR1.3. 設備システムの高効率化（全館LED照明、センサー制御）
- LR3.3. 周辺環境への配慮（光害制御）